

まほろば 自然農園だより



2016-11月号

日照不足のせいで、今年の大根は全体的に小ぶり傾向でした。

札幌農場

チーフ 福田直之

10月、一言で言うと寒いです。

10月は寒い日々でした。残暑が続いて安心していただけの間、急な寒さと日照不足で秋野菜がなかなか育ちませんでした。今年はとことん天候に振り回されています。

先月のたよりでトマトの栽培報告をさせていただきましたので、今回は他の果菜類について報告します。

ナスとコンパニオン

まずナスは今年コンパニオンプランツ（共栄植物）に挑戦しました。ナスとニラの相性がいーということ、元々ニラを栽培していた場所に乾燥防止のため、平畝のマルチ栽培でナスと

ニラを定植しました。

ポイントはナスの根とニラの根を密接させることなので、ナスとニラの根を密接させて定植。ナスの苗も今年はなかなかの出来で楽しい栽培だったのですが、今年のこの長雨の多さにナスの根が殺られ、ほとんど収穫出来ませんでした。乾燥防止の平畝が逆効果でした。



雪の予報が出始めたこの頃。畑にはまだ宝の山が…。

ピーマンの工夫

次にピーマン類ですが、ピーマン類の苗だてが難しく加温過ぎで一度根が殺られたため、成長が悪く十センチ位の苗を定植しました。定植後もなかなか温かくならず低温障害が出ないようにトンネル栽培で温くなるのを待ちました。トンネルのお陰で、すくすく成長しました。



ピーマンの支柱に花ネットを。花卉栽培経験者、福田チーフならではのアイデアです。

花ネットの活用

今年のピーマン類の栽培は例年と異なり切り花ネット栽培です。これは従来のピーマン類はまず主枝を支えるために支柱を立て実が付きたしたら枝が実の重さで折れないように二メートル間隔位で支柱に筋交いを立て、そこに渋縄を引っ張り枝を支えます。さらに成長してきたら畝に合わせて二メートル間隔位で杭を打



雪が来る前に収穫を急ぎます。



貴重な無農薬のキャベツです。

ち込み、また渋縄を引っ張り枝が折れないように支えます。この作業がなかなか大変で、片付けもかなり時間がかかります。

時間節約の切り札？

そこで考えたのが切り花ネットです。まず主枝を支えるために支柱を立て、成長し実が付きだしたら畝に合わせて二メートル間隔位で支柱を立て、ピーマンの上に切り花ネットを張ります。ネットのマスが十センチ四方位なので枝が伸びてきたら、ネットのマス目を通りそのまま成長。ネットが支えになり枝が折れないという仕組みです。



山の紅葉もそろそろ終わりです。



こちらは大根の収穫中。

さらに成長してきたら、成長に合わせてネットを上を上げて行くだけで常にネットが支えになります。作業の手間がかからず片付けも楽に行えます。

注意点は、成長に合わせてネットを上を上げるのが遅れると、枝が絡み、ネットを上げることが出来なくなります。その時は、また新たに上にもう一段ネットを張るしかありません。

今年のピーマンは葉が繁り、色は薄めですが生で食べても苦味の少ない、美味しいピーマンが出来たと思います。

今回はあまり皆様の家庭菜園の参考になるような栽培報告ではありませんが、何かしら参考になればと思い報告させていただきました。

今採れてる野菜達

小松菜、水菜、チンゲン菜、ルッコラ、ターツアイ、大根、カブ、ラディッシュ、ピメント、生花豆、トマトなどです。最後に白菜、キャベツがうまく成長せずほとんど出荷出来なくて申し訳ありませんでした。

かわいふあ〜む

皆さま、こんにちは！
かわいふあ〜むのカワイです！
ここ最近、急に冬ですね。
というか、いきなり寒すぎます。
今年は夏が長くてすぐに冬。
まるで春夏冬。
今年の秋は何処へ？
n(ーー?)ン？

野菜も予定していた成長が見込めず、白菜は未だ出荷できずにいます。

ALL 露地のかわいふあ〜むは暖を取るところもないので、ホッカイロがないと畑に
いられません。

そしてこの急な冬で、片づけを急いでいると収穫に手がまわりません、ホント悩ましい
(*´Д`) = 3 ハア・・・



いよいよ今年も終盤…。大根の収穫。

大根ですが初期に出荷したものは中に空洞やスが入っていたものがあって、お買い上げいただいた方には大変申し訳ありませんでした。気を付けて出荷しているのですが、外見の特徴があまりなく先を少し切って確認しているのですが、それでもひねくれモノがいたりします。

ですので、大半はA品として出荷してもおかしくないのですが、ギザギザハート君（不良）が入っている可能性があるのですべてB品として出荷しております。

「サボイキャベツ」

ご存知ですか？

日本では「ちりめんキャベツ」と呼ばれているキャベツ。

フランスのサボイ地方で昔から作られてきたキャベツで煮込み料理がめっぼう美味い。

今年新たに作ってみた野菜の一つです。



日照不足で白菜もうまく巻いてくれません。

少量ずつ出荷していますが、お陰様で売れています。

しかし、作ってみて分かりました。栽培期間がめっぽう長く、まだ出荷できない大きさのものがたくさん。春に種を撒いて、やっと今出荷出来るのです。

札幌大球と同じ栽培期間ですがサイズは普通のキャベツと同じ。

普通のキャベツだと初夏と今時期の2回収穫出来ます。

味は絶品なのですが、栽培期間が長い
ため普通のキャベツと比べると除草手
間と虫のリスクが倍増し、無農薬栽培にはまっ
たく向いていません。

植えた株の半数近くが草に埋まり虫にやられてい
なくなり、残った株も大きくならない。

なかなか踏んだり蹴ったりですが、味は美味しい。
採算はまったく合いませんので正直、悩ましいで
す。



春から育てたサボイキャベツ。ようやく出荷できます！

来年は作らないかもしれませんが、お店ではあまり取り扱った事のないキャベツですので、とりあえず食べてみてください！！

「芽キャベツ」

ご存知ですね？

これも栽培期間が長く、無農薬には向いてません。
以下「サボイキャベツ」同文ですwww

さつま芋ですが、先月のおたよりで告知していたのにも関わらず、「出す出す詐欺」みたいになっ
て申し訳ありません。

なんとか霜の前に収
獲だけは終わったの
ですが、手が回らず
出荷も出来てません
でした。

いよいよポチポチ出
荷していきます。
味も、悪くはないと
思いますが個人の
主観もありますし、
ハードルも上がるの
でそこそこの程度で
買い求めください。



こちらはサボイキャベツ



こちらは芽キャベツ。どちらも栽培期間が長い

まあまあかな位で、くれぐれも期待はしないで、
そこそこで買ってください！笑

しかーし、思いもよらない寒さで保存場所も温度
が下がっていますので痛みが早いです。

お買い上げ頂いたら期待せずに早めに、しかもヤ
キイモでお召し上がりいただくのがおススメで
す。

今年もそろそろ畑も終わる時期が近づいていま
す。

先月作った雨よけ小屋ですが、早くも屋根のブ
ルーシートが破れています。

先月は思った以上に風が強く、びりびりちゃん
です。

困ったことに来年はまたブルーシートを買い直さ
なければなりません。

そして雪が降る前にブルーシートも外さなければ
なりませんしやることイッパイ！

しかし、やることもイッパイです。

ポップコーンを干したり、大豆を回収したり、自
家採種をしたり、しかしまずは雪の前に焼き芋、
これは絶対ですね。笑

これから出てくる新しい野菜たちは、白菜、かぼ
ちゃ、ポップコーン、くらいかもしれません。

あ、かぼちゃといえばレジ前のかぼちゃ、「まほ
ろば」の名前を入れてみました。

来年はかぼちゃの名入れも受け付けるかもしれま
せんwww

ディスプレイで展示していたハロウィンかぼちゃ
も来年は販売しようかとも考えています。

そんなニーズ、ありますか？



本店レジをご覧ください。



ポップコーン用のとうきびも出荷します！お楽しみに。

最後になりましたが、かわいふあ〜むの野菜を
買い上げ頂いた方にはこの場を借りて御礼申し上げ
ます。m(__)m

ありがたいことにお店の方に感想を頂いたりする
ことも増えてきました。

生の声がないと、心が折れそうですので引き続き
お願いいたします。笑

また、こんな野菜作って等の要望も頂きたいと
思っております。

ぜひとも忌憚のないご意見、ご感想、ご要望など
も、改めて宜しく願いいたします。

かわいふあ〜む 川合浩平



北海道農業改良普及会
さんの『農家の友』10
月号で紹介いただきました。
(右ページご覧ください)



わが子のために転身。 無農薬・無化学肥料栽培で、農家1年目

かわいふあゝむ 川合 浩平さん（札幌市）

長女の誕生をきっかけに、札幌の「自然農園」で研修

「自宅から畑までは車で約10分。僕はスキノに一番近いところに住んでいる農家かもしれませんね。（笑）遮るものは何もない炎天下の畑

で、黙々と作業を進める川合浩平さん（38歳）は今年7月1日に、札幌市の農業者になったばかり。西区小別沢の農地は、うっそうとした樹木がせまる傾斜地にあり、正面には手稲山、眼下に福井の住宅地が広がる。決して、作業がしやすい環境ではな

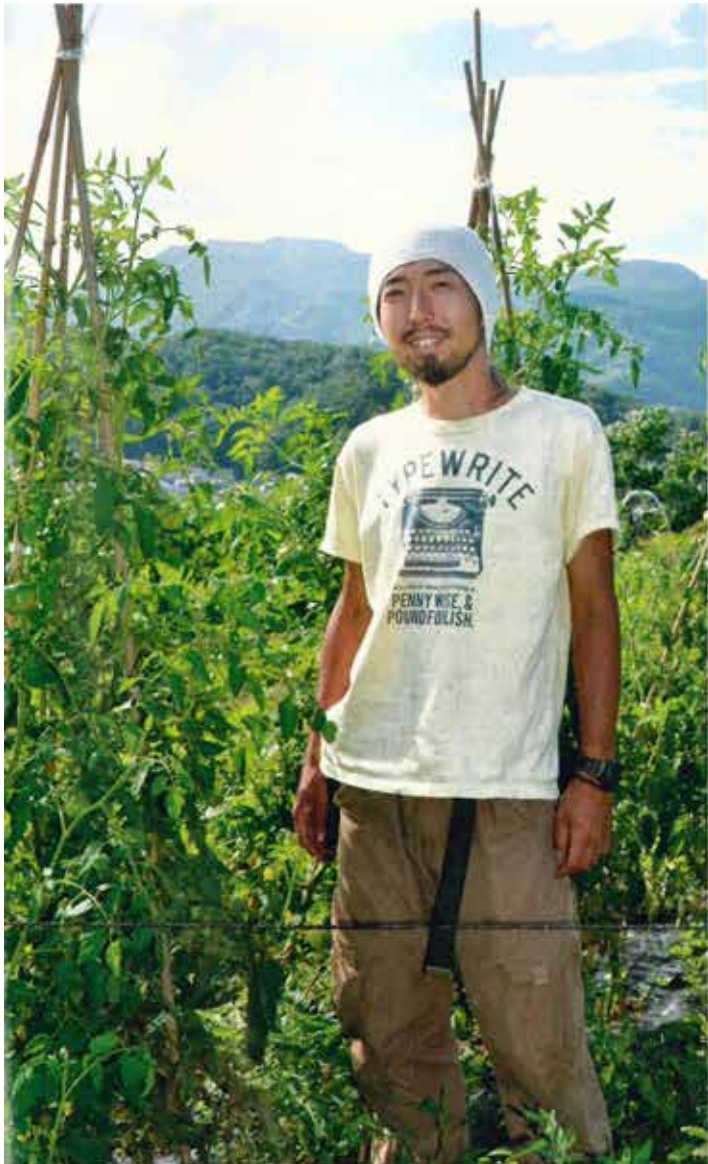
いが、無農薬・無化学肥料栽培を目指す川合さんにとって、格好の農地。川合さんは、「研修をさせてもらった『まほろば自然農園』の畑を、地主さんから借りることができたので、無農薬・無化学肥料栽培のための土壌が出来上がっていて、1年目

から作物を作ることができました」と笑顔を見せる。

札幌市で生まれ、大学卒業まで市内で過ごした川合さんは、就職のために上京。生命保険会社の営業の次に勤めた広告関係の会社で仕事をする中で、「百貨店などの物産展に行くと、北海道ブランドの農産物がものすごく人気があることを知りました」と話す。一方では、余市町にある父親の実家のミニトマト農家でアルバイトをするなど、幼少のころから農作業に触れる機会もあったそうで、「なんとなくですが、農業っていいなと思っていたのかもしれない」と振り返る。

川合さんに転機が訪れたのは、6年間の東京暮らしから札幌に戻り、広告関係の会社で働き始めたとき。学生時代からの交際相手と結婚をし、長女が誕生すると、食品に対する意識に変化が現れてきたそうだ。

「食品のラベルを見ると、原材料欄にいろんなものの名前が書いてあって、これって必要なのかなと思ったんです。買う側が商品を選択できるならいいのですが、それができないなら、自分で作るしかないな。広告の仕事を通して、使い終われば捨てられる大量のゴミへの憤りもあって、自然の循環で成り立つ農業への気持ちが向いていったんです」。川合さんの挑



今年7月から、札幌市内で新規就農した川合浩平さん



石川県金沢市の加賀野菜の「加賀太キュウリ」。煮物や炒め物に合うそうだ



キュウリの収穫をする川合さん。作物は全て露地で栽培している



掘り起こした馬鈴しょをチェックする川合さん



川合さん自身、秋の収穫を楽しみにしているラッカセイも順調に生育している



手稲山を望む西区小別沢の川合さんの農地



馬鈴しょの「デストロイヤー」(手前)と「きたかむい」(奥)

戦はここから始まった。

川合さんはまず、札幌市が主催する農業講座「さっぽろ農学校」で農業の基礎的知識を学びながら、研修先を探し始めた。市内をはじめ、近隣の町村など10カ所近く、話を聞きに回ったそうだが、「農業や化学肥料を使わずに作物を作ったかったのですが、どこへ行っても『有機栽培では食えないよ』と言われました。家族のために、札幌からは離れたくなかったのですが、札幌には研修先

も農地もなくて」と川合さん。

勤務先も退職し、後がなくなった川合さんだったが、その時、耳に飛び込んできたのが、自然食品の販売と農産物の生産を手掛ける「まほろば自然農園」の存在だった。「電話で、研修したいとお願いしたら、責任者の宮沢洋子さんがあっさり『いいわよ』と言ってくれたんです」と川合さん。この間、独学で有機栽培について学び、土壤医検定2級などの資格も取得していた川合さんは、独立就農を目指し、2年間の研修に打ち込んだ。

無農薬・無化学肥料野菜を30種類以上栽培

今年、川合さんが栽培している野菜は、「まほろば自然農園」で作っていた根菜類や果菜類などに、「自分が食べたくて、作りたいと思ったもの」を加え、ざっと数えただけでも30種類以上。ケールやラッカセイ、サツマイモ、「加賀太キュウリ」や地這いキュウリといった珍しい野菜も少量ずつ栽培している。農薬や除草剤を一切使用しない畑は一見すると、どこに作物があるのか分からないほど雑草と混在しているが、「草取りが追い付かなくて、育ち過ぎちゃった雑草もありますけど、大丈夫です。それより、1人で作業しているので、

収穫の適期を逃してしまう野菜があるのもつたいなくて」と川合さん。野菜は種子の自家採取も行い、来年の作付けに備えている。

収穫した野菜は西区西野の「まほろば」のショップで販売してもらっている。慣行栽培の野菜に比べて若干、単価は高いとされる無農薬・無化学肥料の野菜だが、「収入面ではもう少し、頑張らないと駄目なので、来年からは販売の方法を考えたいと思っています。やつてみたいのは、お客さんが来てくれるような畑にすることと、野菜の宅配。今は朝から晩まで畑にいて、子どもと遊ぶ時間もない状態なので、もう1人、パートナールがいればいいんですが」と、就農後の悩みを打ち明ける。長男も生まれ、4歳と1歳の2児の父親となった川合さんは、さまざまな課題を抱えながらも、「野菜作りは面白い」と、明るい表情で話す。

子どもの誕生をきっかけに、会社員から農業者となった川合さんは、「いずれは6次化にも挑戦したい」という夢を描いている。場所柄、エゾシカも頻繁に現れ、作物が荒らされることもあるそうだが、川合さんは自らが自然体で、自然と共存する農業に向き合っている。

(フリーライター／梅村敦子)